愛知大学　３つのポリシー（2026 年度以降）

■ 国際コミュニケーション学部　国際教養学科

教育研究上の目的

学則第１条（目的）
　本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。

学則第２条の２（学部及び学科）
　異文化理解を通して国際コミュニケーション能力を習得し、自国文化についての知見をもちながら、国際的な場で活躍できる人材を養成する。そのために英語をはじめとする諸外国語の学習とともに、欧米、アジア、日本を対象に、文化や社会に関する基礎的な知識の習得を目指す。また国際・国内フィールドワークを実施して具体的な交流に努める。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

　国際コミュニケーション学部国際教養学科では、学則第２条の２に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「学士（国際教養）」の学位を授与します。

（知識・技能）
1. 国籍・文化・価値観・宗教など、人々の異なるバックグラウンドを理解している。
2. 英語及び諸外国語の習得を通じて、バランスある国際感覚を身につけている。
3. 幅広い学際的な教養と専門分野の体系的な知識を身につけている。

（思考力・判断力・表現力）
1. 異文化理解に基づいた健全なクリティカルシンキングを身につけている。
2. 自文化を客観視し相対化することのできる複眼的な思考を有している。
3. 高いリテラシーに基づく情報の受発信を通じて、双方向のコミュニケーションができる。

（主体性・多様性・協働性）
1. 世界の様々な事象について、自ら課題を発見・解決する能力を習得している。
2. 多様な社会・文化背景をもつ人々とコミュニケーションをとり共生できる能力を身につけている。
3. 地域内でも国外でもお互いを尊重し理解を深め合える柔軟な姿勢をもっている。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

　国際コミュニケーション学部国際教養学科では、学位授与方針（ディプロマ･ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、全学部共通で示す教育課程の編成・実施方針に加え、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。

（教育内容）
1. 学問への導入・動機づけを目的とする「入門ゼミ」「国際教養ゼミ」を配置する。
2. 多文化社会を生き抜くために必要な語学力を養うため、「外国語科目」を配置する。
3. 英語で異文化理解を深めるため、１年次から「Seminar」等を配置する。
4. 文化をめぐる個別の現象について国際比較の方法論と論理を学ぶための「基幹科目」、専門について理解を深める「展開科目」、より深く専門に関連するテーマの研究を展開するための「演習科目」を、それぞれ配置する。
5. 学生自身の関心に合わせて、２年次から「アメリカ研究」「日本・アジア研究」「ヨーロッパ研究」の３コースより一つを選択する。同じく２年次から学生が関心に沿って専門知識を系統的に修得できるよう、「グローバルスタディーズ」「カルチュラルスタディーズ」「国際観光学（異文化理解）」の３つの専門理論研究領野を設ける。
6. 学生の国際的な経験値を高めるため、実践的な学びの場として様々な国・地域で国際フィールドワークを実施する。
7. 文系総合大学の強みを活かすべく、他学部の専門科目を幅広く履修できるカリキュラムを編成する。
8. ４年次において、学修の集大成として卒業研究に取り組む。

（教育方法）
1. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。
2. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。
3. 交換留学や国内外での課外活動・フィールドワークを奨励する。
4. 英語教育を促進するため、海外ゼミ研修や短期語学研修の促進、外部の英語テストの受験など、英語で行われる専門科目以外にも、様々な支援を実施する。

（学修成果の評価）
　国際コミュニケーション学部国際教養学科では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。
1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、GPA 分布（年度毎、通算）、留年率、卒業論文の成果評価割合等により行う。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行う。

2025.04.01　掲載

愛知大学　３つのポリシー（2026 年度以降）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

国際コミュニケーション学部国際教養学科では、学位授与方針（ディプロマ･ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

1．求める学生像

（1） 国際交流に意欲を持っている人。
（2） 異文化理解に必要な知識や技能を積極的に吸収しようとする人。
（3） 異なる社会・文化背景をもつ人々と積極的にコミュニケーションを取ろうと努める人。

2．入学前までに修得すべき能力

（知識・技能）

（1） 国際教養学科での教育を受けるのに必要とされる高等学校の教育課程を修得している人。
（2） アメリカ・アジア（日本を含む）・ヨーロッパをめぐる歴史、政治、経済、社会、文化、国際関係への関心をもち、必要な知識や技能を積極的に吸収しようとする人。

（思考力・判断力・表現力）

（1） 現在の国際社会の様々な問題を多面的かつ論理的に考え、自分の意見をわかりやすく説明しようと努める人。
（2） 異文化理解を深めた上で、日本語・日本文化を海外に積極的に紹介したいと考えている人。

（主体性・多様性・協働性）

（1） 多様な文化背景をもつ人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につける意欲をもった人。
（2） 異文化を理解して国際社会や世界の中の地域社会において積極的に貢献したいと考えている人

3．選抜方法

（1） 一般選抜
基礎学力をバランス良く備えた入学者を選抜するために、複数科目を課し、その結果を総合判定して合格者を決定する。

（2） 総合型選抜
出願資格に応じた入試区分を設け、出願書類、小論文、面接等により総合判定して合格者を決定する。

（3） 学校推薦型選抜
調査票（全体の学習成績の状況）、資格点、面接、学科試験により総合判定して合格者を決定する。

2025.04.01　掲載